

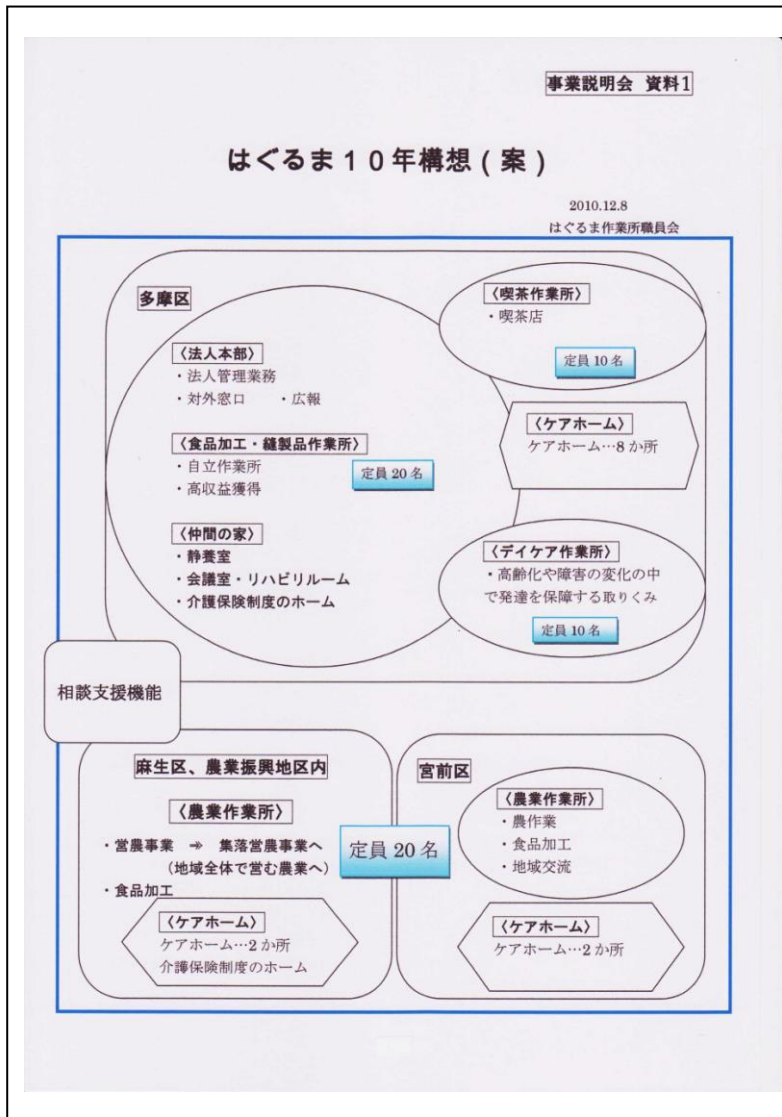
10年先を見つめて

十二月 師走
 その名の通りみんなが走っている、はぐるまの現場です。
 走るといえば、國學院大学が箱根駅伝に出場しますね。仲間と一緒に走ってくれた、選手が箱根路を走る姿が正月に見られるでしょう。
 監督の前田さんには、はぐるまマラソンの相談などで、お世話になりました。選手の皆さんも仲間達に駅伝に出場することを、約束してくれました。願いが叶い

はぐるま

来年は良い年になりそうですね!!
 今年度最期に貴重な報告が出来ることは画期的なことと思います。
 『はぐるま10年構想』(案)

12月8日の『事業説明会』において10年構想案が提案されました。
 只今「はぐるま農園 宮前」の新施設、事業が進んでいます。それと同時に、



No.52号
 2010年12月27日

社会福祉法人
 はぐるまの会

広報委員会
 後援会

川崎市多摩区菅馬場1-18-17

Tel 044-946-1308

長年の仲間達の「夢」であります

「仲間の家」構想も進んでいるわけですが、この2つの新しい事業は、今後どのように展開していくのか、はぐるまは、今後どのような方針を持って、進んでいくのか、一つの方向性を示した提案になっています。この提案の特徴は・・・

★仲間の定員は60人まで増やす

特別支援学校卒業生の受け入れを積極的に、働く場の提供をしていきたい。

★高齢者対策として

作業所に、デイケア的な要素を持った活動場所を作っていく。ホームは既存の借家を減らし、バリアフリー対応の住居を新設する。等の見通しを持ち、生涯保障するための、準備を進めて行きます。

★農園の事業を拡大していく

地域と連携し、仲間の発達を保障できるよう、農作業に熟達し、かつ営農事業へと発展させたい。

★仲間の家構想は

多摩区菅馬場（現在のはぐるま共同作業所）で実現するよう、今年度中に、設計をして、具体的に進むようにします。

施設建設に関連して、『生涯の保障』を強く意識した提案が盛り込まれています。

この方向で進めていくためには、障害者福祉制度の在り方が大きく影響してきますので、運動の強化も強めなければならぬでしょう。例えば、仲間達の生活がどのように保障されていくか、介護保険との統合もささやかれている中、高齢化対策は制度的にどのようになっているのか・・・

生涯を通しての保障を考えた時、はぐるまだけで・・・と言うのではなく、社会資源を活用し、地域の力を借りなければなりません。また法人同士の横の関係も強固なつながりを作る活動をする中で、自らが制度を作るといふ姿勢で臨まなければ「生涯の保障」は出来ないうでしょう。それほど重大な課題だと感じています。

第39回 理事会・評議員会 報告

第一号議案 補正予算

○特徴的な事項について報告します。

(1) 当初予算より収入が多くありました。仲間の利用実績が、予想よりも多かった為に収入に反映されましたが、反面、人件費分の支出は増えています。ホームの日中活動の多様化・通院支援の増大が、考えられます。

(2) 自立支援特例補助金を受けて、あおばホーム…みどりホーム…第2ホーム 第4ホームの改築修繕を行いました。実際にかかった修理費は、4ホーム合計で約350万円、それに対して補助金額は約200万円、差引額、約150万円は法人負担となりました。

(3) 授産会計は・・・昨年はインフルエンザで販売が半年余り中止になり、工賃の支払いが危ぶまれた時期もありましたが、今年度は順調に収入あがっています。仲間の工賃額もあがっていますので、まだぎりぎりの運用ではありますが、ボーナスを含め、支給は出ています。

第二号議案 報告事項

(1) 「はぐるま農園 宮前」事業

進展状況報告

前回の38回理事会にて、協議されました事業の経過報告がありました。

契約の前には、施設を建てて頂く協力者(地権者)との面談及び施設見学を経て、はぐるまを十分理解して頂いた上で、契約を進める事との条件がありましたので、直接面談の機会を作ってきました。

一回目の面談は、澤理事長・本部から福田職員・推進委員代表の伊藤さんの三名で「ご挨拶」に伺いました。

二回目は、法人から中川・福田・高木が、はぐるまの事業内容の説明や、建設に関わる資金面での相談等の話を地権者の方とお話しをさせていただきました。二回の面談でしたが、こちらの状況はご理解頂いたと思っております。

★このように、契約に向かって、少しずつ進んでいますが、正式な契約にはもう少し時間がかかります。現地見学などは、決まり次第計画をいたしますので、現時点での見学等は、ご遠慮願いますよう、お願い申し上げます。

正式に契約が整いましたら、具体的な計画が提案されますので、その都度、「だより」でお知らせいたします。

(2) 相談支援事業について

川崎市は23年度より、支援センターの統合を行う改正案を出していました。

しかし実施にいたる手続きが、早急すぎることや、関係者への説明がなされていないことなどがあり、当事者・関係者のいわゆる

る、市民運動が、マッタをかけ、見直しを迫りました。結果・・・23年度は今までどおりの制度を継続する事になりました。

ただし24年度には、改正をするとの意向は出ていますので、樂觀は出来ない状態です。はぐるまとしては、今後の方向性を見極めていく事や、各会代表で構成される「はぐるまの支援センターの在り方を検討していく会」を、発足いたします。

はぐるまでも、自立していく仲間が出てきましたので、生活を支える所はどこなのか、精神面の安定を図りながら、本人の力を見極めながら、生涯に亘りの生活を支援して行くところはどこかと、考えた時、生活支援センターの役割は大変重要な位置を占めると思います。

今後地域移行が進むに伴い、益々その存在は大きくなる事が予想されます。福祉全体がよりよい方向で進むよう、私たちが出来る事からしっかりと取り組みをしていきたいと思えます。

(3) 地域活動への参加要請

はぐるまの仲間へ、地域の方からイベントの参加要請がありました。

このところ土日のホーム活動で「みどりを守る会」「里山を守る会」の様な、地域活動に参加する事が多くなり、その時の仲間達の動きを見て一緒にやりたいと、申し出て頂きました。

以上が理事会の報告です。

地域活動記録

理事会の報告にもありました、地域との関わりが、広がっています。仲間達の力が、地域に評価される事は、大変ありがたいことです。

地域活動は日常的に行われている事で、その中で、仲間達は力を付けてきました。販売活動もその一つで、「社会と関わる力」は長年の活動の中で、養われてきたものです。その力を大いに発揮して欲しいと思います。

日々の地域活動の様子を特集します

第一作業所

中野島神社は11月に入ると、樗と銀杏が

境内を埋め尽くします。落ち葉を大きなゴミ袋に詰め、台車に乗せゴロゴロと運ぶ仲間、サンタのようにかついで、作業所まで運んで来る仲間、何往復もしてたくさんの袋を運びました。

(工房のたい肥場へ)

第二作業所

毎週木曜日、**地域清掃**・軍手にゴミ袋を持ち、「発見!」「見つけた!」と小さなゴミも逃さず拾います。

「ありがとう」「ごくろうさまの声を聞くと、ますますハッスル、頑張る仲間達です。

工房

「あさお新生きコム隊」の皆さんと畑を耕

し、のらぼうの苗植えをしました。

「環境を考え行動する会」と交流を開始

・モスバーガーよりコーヒークラスを受け取る

←

・工房で天日干しをする

←

・環境を考え行動する会の会員さんに、150250円で販売する。

「富士通川崎工場」より・毎月50kの肥料

を提供していただいています。工場では毎日の残飯を加熱処理し「のびのびグリーン」という肥料を作っています。

仲間と共に巨大な工場へ出かけ、頂いています。良い野菜を作って報告が出来ると思います。

菅工舎

「中野島小学校交流」特別学級のちびっこ

達5人が、交流学習にやってきました。

毎年秋に2回行われ、今年で7回目となります。

進行役の石暮稚弘さんが説明

「中野島小学校のみなさん！来てくれてありがとうございますどうぞございます」今日は、はぐるまの仲間と一緒にふきんを作りましょう！

そしてお家を持って帰って、是非使ってください。大変丈夫なふきんです。もうひとつは、元気に声をかけましょう。布たたみは、ずれてしまうからです」こうして、ちびっこと、仲間とペアで布たたみをし、ミシンの仲間縫ってもらい、完成させました。「今日は楽しかったです。お家で使います」と言ってくれました。

今はまだちびっこ達ですが、この経験が「ミシンやってみよう」「はぐるまの仲間みたいになりたい」と思ってくれたらイイなと思います。目標の人になれるよう頑張っていきたいです。

ホーム土日地域活動

川崎市・

二ヶ領用水竣工400年プロジェクト

二ヶ領用水清掃活動参加

毎日の運動コースであり、通勤路でもある地元の活動に、地域の皆さんと一緒に清掃活動に参加しました。

行政の方の用水に関わる説明も大変面白く、ゴミを拾いながら、少し物知りになりました。たとえば、流れを計算して、途中の丸太が決められた間隔で、打ち込まれている事、1本でも抜けると、流れが変わってしまう事など、いくつか興味深い話を聞きながら回りました。

地域住民としての役割を

きっちり果たしてききました



セブンイレブンの店員さんも

沢山参加していました。



12月の穏やかな晴天の日
よみうりランド「みどりを守る会」の
市民活動に参加。川崎とは思えない

みどり豊かな農村の風景の中に、

どっぶり

浸かってきました。

乱開発されそうな

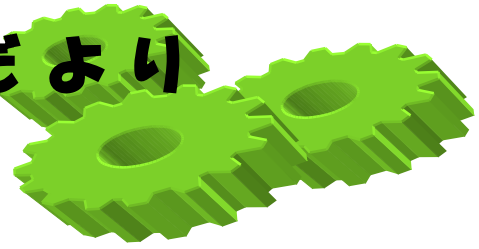
この地域を残す会合に

お茶を運んだり

昼食の準備を手伝ったり

沢山のひと話をしました。

はぐるま後援会だより



はぐるまの会 後援会事務局

〒214-0004 川崎市多摩区菅馬場1-18-17

TEL 044-946-1308

NO, 15

今年の「書」は「暑」
でしたが、のど元
過ぎると何とやら
とても昔の事のように
に思えます。

今年も皆様の

変わらないご支援

に心から御礼を

申しあげます。

ありがとうございます

ございました。

振り返りますと、

大きな事業が進

むと同時に

はぐるまの理念を

再確認する必要

性を、関係者一同

感じた一年であっ

たと思えます。

新しい事業には

多くの協力が必要

になります

新規会員:更新ありがとうございました

たくさんの寄付をありがとうございました

「いくつになっても、生き生きと働き、
生活する」ことを実践していく為に、必要
な事業を展開していきますので、23年もよ
ろしくお願いいたします。

この寄付は

後援会に入金いたしました

《敬称略》

新・麻生生きごみ隊

伊藤 祥子 / 福田 真

トランサイドコーヒー

視線の先へDVD売上げ

登山合宿DVD売上げ

山岸 武子

《新規》敬称略

石澤 幸樹

宇野 高史

佐々木 綾太

蛭海 涼

浦山 一子

《更新》

金田 圭二

橋本 妙

森崎 敏之

寺川恵美子

石暮 孝明

仲間の家基金に入金いたしました

地域ふれあい祭り実行委員会

餃子のくうさん

親の会 フリーマーケット売上げ

北口商店街

芳賀 ゆみ子

法人寄付用通帳に入金いたしました

菅フリーマーケット実行委員会

志岐 チエコ / 高木 綾

松浦 貴美子